

### 1-3-13-3 旧東照宮本地堂 附 棟札

〈市指定〉昭和 53 年 2 月 23 日

〈所有者〉東照宮

〈所在地〉西之一色町 3 丁目 1004 番地

〈時代〉文政 7 年（1824）

〈員数〉1 棟 1 枚

〈本地堂〉（1 棟）桁行 4.73m、梁間 4.73m、方三間方形造、向拝、下屋付き

〈棟札〉（1 枚）表 文政七年十月八日上棟 入佛導師御別當松泰寺住権大僧都法印良泰 天下泰平武運長久奉建立東照宮御本地堂一字大本願主飛騨郡代芝與市右衛門源正盛 大工平吉 平四郎 利三郎 田中大秀謹誌 赤田光暢拝書（一部、他に願文等有）表面は赤田光暢が書いている。

裏 縁起文が田中大秀によって書かれている。

文政 7 年（1824）、郡代の芝正盛が願主になり、陣屋出入の大工小峠平吉によって建てられた。当初、東照宮祭神の本地仏である薬師如来を祀るために建てられたが、明治の神仏分離により、現在は稻荷社、菅原公廟（すがわらこうびょう）になっている。

木割りが太くて形態も美しい。方形造りに向拝を付け後側に下屋を配した様式は、この地方では珍しい。

昭和 57 年、セメント瓦がもろくなったため銅板葺に改め、土台の一部も修理した。

『高山市の文化財』 より